

## 高校の文化祭で広報活動



埼玉地本（山野正志1等空佐）は、平成30年9月9日、細田学園高等学校（埼玉県志木市）の文化祭「白梅祭」において、東部方面音楽隊と細田学園吹奏楽部による合同演奏会を支援するとともに、募集広報活動を実施した。

演奏会は、生徒及び保護者の方々をはじめ近隣の住民など大勢で賑わい、総勢50名以上で奏でられたパワフルな合同演奏は聴衆を魅了した。

また、広報官は校内に開設した募集ブースに訪れた多数の生徒に対し、入隊後の生活や自衛官の仕事内容について詳しく説明するとともに、女性自衛官について質問してきた女子生徒には、自衛隊には女性が活躍できる環境や制度が整っていることを丁寧にPRした。

生徒からは、「陸海空自衛隊で多様な職種があることがわかった。」「将来の職業選択のひとつになった。」との話があった。

埼玉地本は、「今後も学校行事等を積極的に活用し、自衛隊の魅力やPRして、一人でも多くの生徒に自衛官という職業を選択してもらえるように取り組んでいく」としている。

## 就職援護企業の部隊研修を実施



埼玉地本長（山野正志1等空佐）は、平成30年10月2日から3日まで、県内の企業主等を自ら引率し、空自松島基地と陸自多賀城駐屯地の部隊研修を実施した。

本研修は、各企業主等の防衛省・自衛隊へのより一層の理解促進を通じて、退職自衛官の更なる雇用拡大と予備自衛官等制度への協力を得ようとするものであり、埼玉県自衛隊退職者雇用協力会長をはじめ、8社の企業主等に参加いただいた。

初日に訪問した空自松島基地では、基地の概要について説明を受けたのち、松島管制隊、飛行場地区の研修、ブルーインパルスの本番さながらの迫力ある展示飛行訓練を間近に見るなどした他、隊員食堂の体験喫食では、ご当地料理である「はらこ飯」に舌鼓を打った。

翌日は、陸自多賀城駐屯地を訪問し、主要部隊である第22普通科連隊の活動について説明を受けた後に同連隊直接支援中隊が実際に行っている車両整備状況を研修した。

松島基地、多賀城駐屯地とも東日本大震災では、津波により航空機や車両が使用不能となるなど甚大な被害を受けたなか、各隊員が、家族と連絡が絶たれ、安否確認もできないまま被災直後から長期に亘る災害派遣に従事したという事実は、本研修に参加した企業主等に、自衛隊が国民の安心と安全の確保に多大な貢献をしていることを改めて認識していただく結果となった。

本研修は、第4航空団及び第22普通科連隊から多大な支援と協力を受け、円滑かつ整齊に有意義に実施できた。埼玉地本は、今後も引き続き、企業主等に対し魅力的かつ積極的な広報活動を展開し、防衛省・自衛隊への理解を深めていただき、退職自衛官の雇用基盤の拡充と予備自衛官等制度への安定的な協力態勢の整備に一層努めていく所存である。

## ハロウィンイベントで広報活動



埼玉地本（山野正志1等空佐）は、平成30年10月20日、朝霞市「朝霞の森」で行われた「四市まるごとハロウィン2018」において、第32普通科連隊第3中隊（大宮駐屯地）の支援を受けて、広報活動を実施した。

このイベントは、埼玉県の志木市・朝霞市・和光市・新座市の4市が合同で開催した子供から大人まで楽しめるイベントであり、当日は秋の心地良い日差しの中、多数の来場者が集まり、自衛隊広報ブースでも行列ができるほどの賑わいをみせた。特に装備品展示コーナーの高機動車・偵察用バイク・軽装甲車には、写真撮影を楽しむ家族連れが多く訪れ、携行食・災害派遣のパネル展示を交えた説明を熱心に聴くなど普段接する機会のない自衛官とのイベントを満喫している様子だった。

このイベントは、埼玉県の志木市・朝霞市・和光市・新座市の4市が合同で開催した子供から大人まで楽しめるイベントであり、当日は秋の心地良い日差しの中、多数の来場者が集まり、自衛隊広報ブースでも行列ができるほどの賑わいをみせた。特に装備品展示コーナーの高機動車・偵察用バイク・軽装甲車には、写真撮影を楽しむ家族連れが多く訪れ、携行食・災害派遣のパネル展示を交えた説明を熱心に聴くなど普段接する機会のない自衛官とのイベントを満喫している様子だった。

参加者からは「現役自衛官と身近に接することができて貴重な話を聞きました」等の声が聞かれた。

埼玉地方協力本部朝霞地域事務所では今後も、地域に密着した広報活動を展開するとともに、関係部隊等との連携を密にして、防衛省・自衛隊の活動に対する理解と関心を高めるとともに、自衛官募集業務へ繋げていくとしている。